

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874400308		
法人名	社会福祉法人尚徳会		
事業所名	グループホームとよおかの里		
所在地	兵庫県豊岡市香住1272番地		
自己評価作成日	平成22年5月31日	評価結果市町村受理日	平成22年7月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2874400308&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目一番地 姫路自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成22年6月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を山や田んぼに囲まれて野鳥やカエルの声が聞こえ、田んぼを挟んだ向かいには、小学校・保育園施設の前が通学路で毎日子供たちの声が聞こえて立地的には大変恵まれている。特に日課を決めて毎日入居者の方がやりたい事を職員がサポートし、入居者の方が出来るだけストレスがかからない様にしています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特養、ショートステイ、デイサービス、居宅支援事業所と併設されたグループホームで開設して7年が経過している。入居されても職員と共に明るく楽しく暮らせるようなケアを目指している。契約時より将来像をしっかり見据えて重度化したり、終末期を迎えても、本人や家族の意向をふまえて適切な対応ができるような体制をつくり、それが入居者、家族の安心感につながっている。管理者はじめ職員は何でも話し合える相談しやすい関係があり、母体法人、各事業所との連携も、毎年2回の避難訓練や研修等でスムーズにできている。日々の生活においては入居者の思いを把握するために傾聴を心がけ寄り添うケアを大切にされている。今後は、併設型の強みを活かし地域との交流も少しずつ試みをされて、地域の認知症ケア、福祉の拠点となり地域住民の集える、地元根ざしたホームづくりが期待される。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

(セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。)

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	併設する施設の基本理念の他にGHでも理念を決めて施設の理念とGHの理念をリビングに掲示し誰もがみれる様にしている。	母体法人の基本理念をもとにして、事業所独自の理念を掲げている。リビングに掲示し、日々の生活の中でもその理念を共有できるようにしている。月1回の会議の際にも、職員で話しをして実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会の活動をしておらず、なかなか交流を図るということは難しいが、地域のお祭りには参加している。	隣の小学校の行事に参加したり、地元のお祭りに出かけたりしている。近くにお菓子の神様を奉ってある中嶋神社があり、毎年1回のお祭りには利用者と一緒に楽しみに出かけている。	近隣に民家が少ないこともあるが、地域との交流の場が限られている。ボランティア活動をされている方が少ないという地域の特徴もあると思うが、利用者の日々の生活がより充実し、地域の中で暮らすことの楽しみや個々の生きがいに繋がるように、今後の取り組みに期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度よりGHで独自に広報誌を年間4回作成して地区の公民館や小学校などに発送する予定である。それらを通して地域の人に情報を発信していきたい。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年2回の開催ではあるが会議で出た意見については、出来ることから実践している。	年に2回、地域包括や民生委員、区長さんや小学校の校長先生などの参加を得て開催されている。開催時期や時間帯、連絡など試行錯誤しながら実践されている。	固定メンバーにこだわらずに、地域の幅広い分野からの構成も検討されてはどうか。ボランティアや災害時の対応など、利用者がこの地域で暮らしていくことを考えて、その糸口にもしてほしい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要な時は連絡を取る様にはしている。	毎月1回のケアマネ部会には、できるだけ参加している。提出書類は、持参するようにして、市町村との接点をつくっている。わからないことなどは、直接問い合わせしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設の施設で毎年身体拘束の研修を実施しており、毎年そこには出席をしている。基本的には施錠はしていないが、危険予防の為にその面する玄関のみ施錠している。	身体拘束に関する研修を行ない、出席できなかった職員にも伝えている。現在は、利用者の様子により、玄関の鍵を施錠している。	管理者はじめ職員は、基本的には身体拘束はしない方針であるが、利用者の心身の状況によっては、安全のために止むを得ず施錠が必要となる場合もある。現在、入居間もない利用者で、家族とも相談の上、しばらく玄関の鍵を施錠して、様子を見ている。将来は、状況により、施錠をしない時間帯など設ける予定である。
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年施設で研修を行っており、そこには参加をしている。	法人で開催される研修に参加している。6月の会議でも話しをして、高齢者虐待防止について話をする機会を設けているが、研修等の記録の確認ができなかった。	研修や話し合いはされているので、今後はその記録をして、その時参加できなかった職員も後日確認、伝達が確実にできるようにされることが望ましい。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月開催している会議の場で研修を開いて、学ぶ機会を作っている。	利用者の中で、現在相談されている方があり、関係機関や地域包括支援センター等とも話をされている。管理者は、権利擁護等に関する制度の理解の必要性を感じておられ、これを機会に職員との勉強会を計画されている。	
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来ている。	契約に関しては、全て管理者が行っており、その内容については、十分な説明を行ない、納得いただいている。わからないところは、後からでもいつでも説明するようにしている。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出来ている。	現在は、利用者の家族が訪問されたときに意見を聞いているが、特に意見等はない。事業所として、利用者や家族からの意見を反映する機会やしくみづくりについての取り組みは確認できなかった。	行事や面会時等に際して家族から意見を聞くなど、されているが、より多くの意見や、直接言いにくいことなどを引き出すためにも、幅広い意見を聞く機会を設けて、利用者のため、より良いサービス提供につなげていくためのしくみづくりをしてほしい。
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を開いて居りその場で自由に発言できる機会を作っている。また、普段でも職員からの意見や提案は聞き、引き継ぎノートなどで提案している。	月1回の会議だけでなく、日々の取り組みの中でも、職員からの意見や提案を積極的に聞く機会を設けている。また、問題が起きたり、相談事がある場合は、全員で話し合い決めるようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来ている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来ている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流は図れていないが新しく出来る事業所が有りそのことの交流が図れるように検討している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	前もって事前にご本人を交えて面接を行っている。併設のデイサービスを利用して居る時は、利用時の様子を見にいっている		
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に希望があれば見学をしてもらっている。また、事前に訪問して説明など行っている。		
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に事前面接を行っておりその中で必要なものを伺い対応できるようにしている。		
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事は見守りをし、出来ない部分は職員と一緒にする様にしている。		
19			本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会があれば、近況報告を行っている。また、状態の変化があれば、直ぐに家族へ連絡したり、毎月請求書送付の際に書面で近況報告をしている。		
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば、馴染みの散髪屋に行っている。また、帰宅願望が強い入居者の方には家人に連絡してから、自宅に訪問する様にもしている、	以前から利用していた散髪屋への利用の支援を行ったり、生活の場、暮らしていた地域の思い出など、本人が希望していることについては、できるだけ実現できるよう相談して支援に努めている。	
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来ている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に入所された方に時々入居者と一緒に面会に行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時間があれば入居者と会話をするようにしている。その中で希望や意向を伺い、出来るだけ早急に行うようにはしている。	利用者個々の思いや希望について、自分から言葉にできにくい方もあるため、日頃から利用者の生活に配慮し、目配りをしたり、それぞれの利用者との会話も大事にしている。その中から引き出せることもあり、外出の希望や帰宅願望についても話を聞き、できることは実現できるようにしている。	
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に必ず面会をして概況表として職員全員に情報提供している。		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前に必ず面会をして概況表として職員全員に情報提供している。		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所前に必ず面会をして概況表として職員全員に情報提供している。	利用者のより良い暮らしのために、本人の希望や家族の思い、必要な関係者との話しなどを盛り込み、日々の暮らしを大切に介護計画をつくるために、入居前の面会や家族との話しや職員全員からの情報収集などを重要視して作成している。今後は、記録に工夫をされれば、より良くなる	
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に入力したり、引き継ぎノートにて情報を共有するようにしている。		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズが生まれれば、家族や職員とも相談しながら柔軟に取り組んでいる。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来るだけ安全で豊かな暮らしが送る事が出来る様に努めている。		
30	(14)		かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切に行えていると思う。	内科系は、ホームの協力医療機関に相談の上変更してもらうが、その他の整形外科や精神科、歯科などについては、できるだけ今までの医療機関で従来の医療が受診できるよう支援している。	
31			看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があればすぐに報告して、実際に診てもらい、指示を受けて受診をしている。		
32	(15)		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	きちんとは関係づくりはしていないが、入院時には概況表を病院へ渡したり、電話があれば情報を伝えている。	ここ最近は、利用者の入退院もないが、しかし、もしもそのようなことになれば、病院関係者と当ホームの職員が、情報交換や相談にのり、指示や情報の伝達に努める。	
33	(16)		重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看護師より重度化・見取りについて本人・家族を交えて話をしている。しかし、地域の関係者とはそういった話はしていない。	事業所は、重度化した場合における対応に関する指針を作成しており、入居契約時に看護師より、本人、家族に話しをしている。利用者が重度化した場合や終末期に近づいた場合には、職員が共に協力して支援に取り組んでいる。	
34			急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の施設で毎年行われている研修に参加している。		
35	(17)		災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の施設と一緒に定期的に避難訓練をしている。しかし、GH独自では行っておらず、今後の検討課題である。	年2回の避難訓練は定期的に行っていて、事業所内での協力体制をもとに実施されている。夜間想定訓練についても実施されているが、事業所独自の訓練の実施や、災害時の備蓄の準備などはされていない。	法人との協力体制も重要であるが、今後は近隣の住民等の協力を得ていくことや、災害時の必要品の備蓄の計画をされて、事業所独自の訓練の実施も今後は是非取り組んで欲しい。

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来ている。	法人での研修に職員が参加して人格の尊重やプライバシーの確保についての対応などを学んでいるが、その記録が確認できなかった。	事業所の職員は、法人での研修に参加している。事業所での会議の中でも議題になっているので、今後はその記録と資料をファイルし、参加できなかった職員もいつでも確認できるようにされるとより良いのではないかと。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示ができない方については、職員が自己満足せず、その都度声をかけて伺うようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ希望に沿う様にしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来ている。		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いなものや食べられない物については、代替えし、簡単な盛り付け(漬物や汁もの)は、一緒にする様にしている。	毎日の食事に関して、管理者はじめ職員は、準備、調理、配膳、食事、後片付けを、利用者のできることを引き出しながら行なうことを大切に考えており、毎日の買い物から一緒に行なっている。食事は職員と共にして、個々の体調等を確認しながら支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1週間のメニューを担当職員が考え、管理者・施設の管理栄養士にも目を通してもらっている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来ている。	約半数の利用者について、時間をみはからっての声かけや誘導を行なっている。それぞれの生活習慣を大切にしながら排泄のパターンを記録をして、職員が協力し自立にむけた支援を行なっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来ている。		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があれば、併設のデイサービスの一般浴槽を使わせてもらったりしている。時間については、安全面から夜間入浴は行っていない。	毎日午前午後と入浴の時間を準備しているが、利用者一人当たりになると、週3回から4回の入浴をされている。個々の希望や話しをしながらできるだけ希望に添った時間帯に支援している。夜間帯でも利用者の状態や必要に応じてシャワー浴などを行なっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状態に合わせて行っている。		
47		服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出来ている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ている。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	出来るだけ外出ができる様には努力している。	ホームで飼っている犬の散歩をかねて、歩ける方と職員と一緒に出かけることが多い。買い物は毎日行っている。歩くのが不安定な方については、職員が付き添い、車椅子なども利用しながら無理なく散歩できるように工夫している。寒い時期や真夏の暑い時期などには、室内を歩くこともある。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、管理させてもらっている。希望があればいつでも使えるようにはしている。		
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ている。		
52	(23)		居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ている。	広く明るい居間と食堂には、適当におかれたソファや畳コーナー、棚などが、利用者個々の居心地良いスペースづくりに役立っている。共用空間は明るく、畑のコーナーも見えるようになっており、洗濯物も干せるようになっている。	
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来ている。		
54	(24)		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ている。	自宅で使い慣れた、鏡台や筆筒、リクライニングの椅子などを置いて、利用者がゆったりと落ち着いて過ごせるように家族とも相談して工夫している。それぞれの生活習慣に応じて、居室に置くものを相談しており、利用者のお気に入りの家族の写真なども飾られている。	
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ている。		